

その常識、変えてみせる。



2026年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月14日

上場会社名	株式会社SHIFT	上場取引所	東
コード番号	3697	URL	https://www.shiftinc.jp
代表者 (役職名)	代表取締役社長	(氏名)	丹下 大
問合せ先責任者 (役職名)	管理本部経理部部長	(氏名)	浅井 健一郎
配当支払開始予定日	—	(TEL)	03-6809-1165
決算補足説明資料作成の有無	: 有		
決算説明会開催の有無	: 有	(アナリスト・機関投資家向け)	

(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第1四半期の連結業績 (2025年9月1日～2025年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第1四半期	34,845	15.5	2,817	△19.9	2,778	△16.2	1,795	△9.2
2025年8月期第1四半期	30,174	20.3	3,517	94.0	3,313	76.0	1,976	80.7

(注) 包括利益 2026年8月期第1四半期 1,743百万円(△14.1%) 2025年8月期第1四半期 2,029百万円(92.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年8月期第1四半期	円 銭 6.82	円 銭 6.81
2025年8月期第1四半期	7.50	7.49

(注) 1. 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。

(注) 2. 2025年1月24日付で普通株式1株につき15株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	調整後営業利益		調整後経常利益		親会社株主に帰属する 調整後四半期純利益		1株当たり調整後 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
2026年8月期第1四半期	3,316	△18.4	3,277	△15.2	2,294	△9.2	8.71
2025年8月期第1四半期	4,067	—	3,863	—	2,527	—	9.58

(注) 1. 2026年8月期より、調整後営業利益を含む各調整指標について実績値を公表することとしました。

- ・調整後営業利益：営業利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費
- ・調整後経常利益：経常利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費
- ・親会社株主に帰属する調整後四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費

- ・1株当たり調整後四半期純利益：親会社株主に帰属する調整後四半期純利益/普通株式の期中平均株式数

(注) 2. 調整後営業利益を含む各調整指標については、前連結会計年度より集計しているため、前連結会計年度の対前年同四半期増減率については、記載をしておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
2026年8月期第1四半期	79,102		42,862		53.5
2025年8月期	77,001		41,037		52.7

(参考) 自己資本 2026年8月期第1四半期 42,347百万円 2025年8月期 40,598百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年8月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2026年8月期	—				
2026年8月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の連結業績予想（2025年9月1日～2026年8月31日）

									(%表示は、対前期増減率)
	売上高		調整後営業利益		調整後経常利益		親会社株主に帰属する調整後当期純利益	1株当たり調整後当期純利益	
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
									1株当たり当期純利益
通期									円 銭
									43.67

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 2. 2026年8月期より、調整後営業利益を含む各調整指標について業績予想値を公表することとしました。

- ・調整後営業利益：営業利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費
- ・調整後経常利益：経常利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費
- ・親会社株主に帰属する調整後当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費
- ・1株当たり調整後当期純利益：親会社株主に帰属する調整後当期純利益/普通株式の期中平均株式数

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 一 社 (社名)

除外 一 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年8月期 1Q	267,500,670株	2025年8月期	267,500,670株
② 期末自己株式数	2026年8月期 1Q	4,208,457株	2025年8月期	4,215,507株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年8月期 1Q	263,291,593株	2025年8月期 1Q	263,682,564株

(注) 1. 期末自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式（2026年8月期 1Q 3,291,450株、2025年8月期 3,298,500株）が含まれております。また、期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。（2026年8月期 1Q 3,292,070株、2025年8月期 1Q 3,398,850株）

(注) 2. 2025年1月24日付で普通株式1株につき15株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
第1四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	10
第1四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

① 当第1四半期における業績

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は米国の通商政策による影響が一部にみられるものの、雇用・所得環境の改善や、各種政策の効果もあり、国内経済は緩やかに回復しております。一方で、金融資本市場の変動影響や海外景気の下振れなどもあり国内外における経済的な見通しは不透明な状況が続いております。

当社グループがサービスを提供するソフトウェア関連市場においては、産業界全体に変革を起こすDX（デジタル・トランスフォーメーション）の需要は引き続き高まっており、中でも生成AI等の新技術の活用が注目を集めております。その中で、人間とAIの共存共栄を図るためにも、人材の確保や育成、再教育（リスキリング）がますます重要になると考えております。

また、ネットワークやアプリケーションを中心として社会全体におけるセキュリティ領域への注目が集まる中、マルウェアへの感染やソフトウェアの脆弱性を悪用した攻撃等によるセキュリティリスクの顕在化が進み、その重要性は一層高まってきております。

こうした経営環境の中、当社グループでは売上高3,000億円企業に向けた成長戦略「SHIFT3000 ～シフトスリーサウザンド～」を掲げております。企業価値向上に向けたDX戦略のもと、IT市場はますます活況となることが想定されており、当社グループが創業以来培ってきた営業力・サービス・人事/採用力・M&A/PMI力を掛け合わせることで事業の拡大と成長を目指しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における、当社グループの業績は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	30,174	34,845	4,670	15.5 %
営業利益	3,517	2,817	△699	△19.9 %
EBITDA(※)	4,317	3,642	△674	△15.6 %
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,976	1,795	△181	△9.2 %

※EBITDAは、営業利益にのれん以外の無形固定資産を含む固定資産の減価償却費、のれん償却費を加算して算定しております。当社グループでは、将来の成長のための投資の源泉たる現金の創出力を測る指標として有用であると判断し、EBITDAもモニタリングの対象としております。

② 業績予測に対する進捗と主要なKPIの推移

当社グループは、「新しい価値の概念を追求し、誠実に世の中に価値を提供する」という企業理念のもと、持続的に社会課題を解決する会社としての成長を目指しております。その実現のマイルストーンとして売上高目標を設定しており、具体的な指標として、2026年8月期から2027年8月期に売上高2,000億円を目指す「SHIFT2000」や、2028年8月期から2030年8月期に売上高3,000億円を目指す「SHIFT3000」を掲げ、企業理念の実現と企業価値の最大化を図ってまいります。なお、当第1四半期連結累計期間における業績予想値（通期）に対する進捗率は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

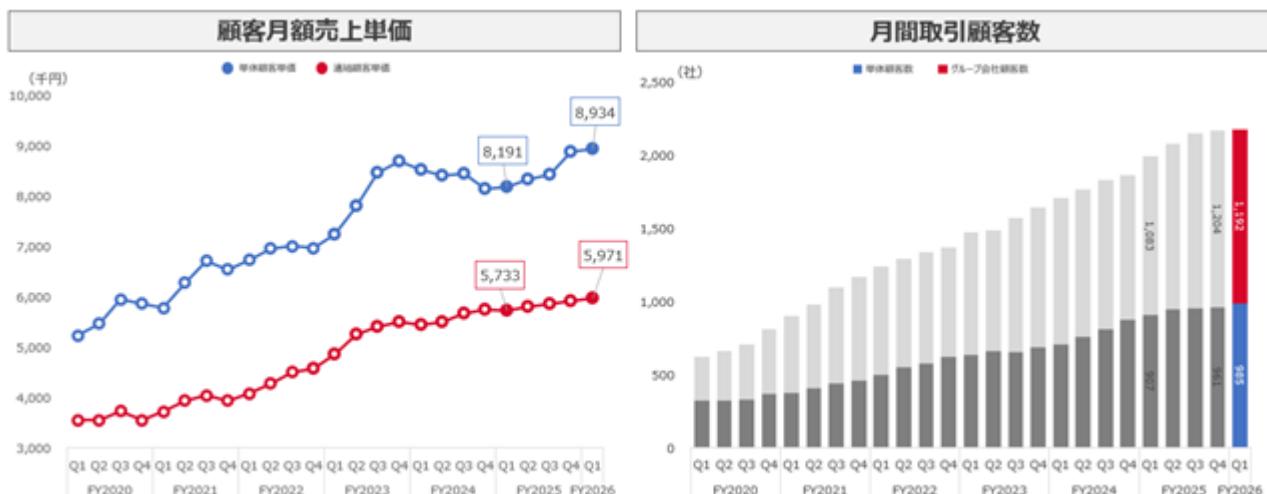
	業績予想値（通期）	当第1四半期実績値	進捗率
売上高	150,000	34,845	23.2 %
調整後営業利益(※)	20,000	3,316	16.6 %
調整後経常利益(※)	20,000	3,277	16.4 %
親会社株主に帰属する 調整後四半期（当期）純利益(※)	13,500	2,294	17.0 %

※調整後営業利益を含む各調整指標の算定方法は以下のとおりです。

- ・調整後営業利益
営業利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費
- ・調整後経常利益
経常利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費
- ・親会社株主に帰属する調整後四半期純利益
親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却費+顧客関連資産に係る減価償却費+M&Aに係る諸経費

上記のとおり、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高成長を伴った業績予想値という目標の中、売上高は順調に推移しております。また、当第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度上期に戦略的に抑制していた採用活動を正常化したことによる採用費の増加等の結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は売上高ほどの伸びとはなりませんでした。

一方、顧客単価、顧客数、エンジニア単価、エンジニア数などのKPIは上昇トレンドを継続しております。当第1四半期連結累計期間におけるこれらの指標及び2020年8月期からの四半期ごとの推移は以下のとおりであります。



顧客月額売上単価及び月間取引顧客数の算出方法は、以下のとおりであります。なお、これらの計算には、顧客単価や顧客数をKPIとして業績を管理することが適切ではないと認められる一部の事業（ライセンス販売や教育サービス、販促サービス等）に係る売上高及び顧客数を含めておりません。

(ア) 顧客月額売上単価（単体）

$$\text{顧客月額売上単価 (単体)} = \frac{\text{単体売上高}}{\text{単体顧客数 (合計)}}$$

単体売上高	売上高と、売上計上予定額（稼働は開始しているが検収前のため翌月以降に計上される予定の売上高）を当月の稼働の実績に基づいて月別に按分した額を、四半期で合計した数値
単体顧客数 (合計)	売上高を計上した顧客数と、売上高を計上していないが稼働があった顧客数を四半期で合計した数値

(イ) 顧客月額売上単価（連結）

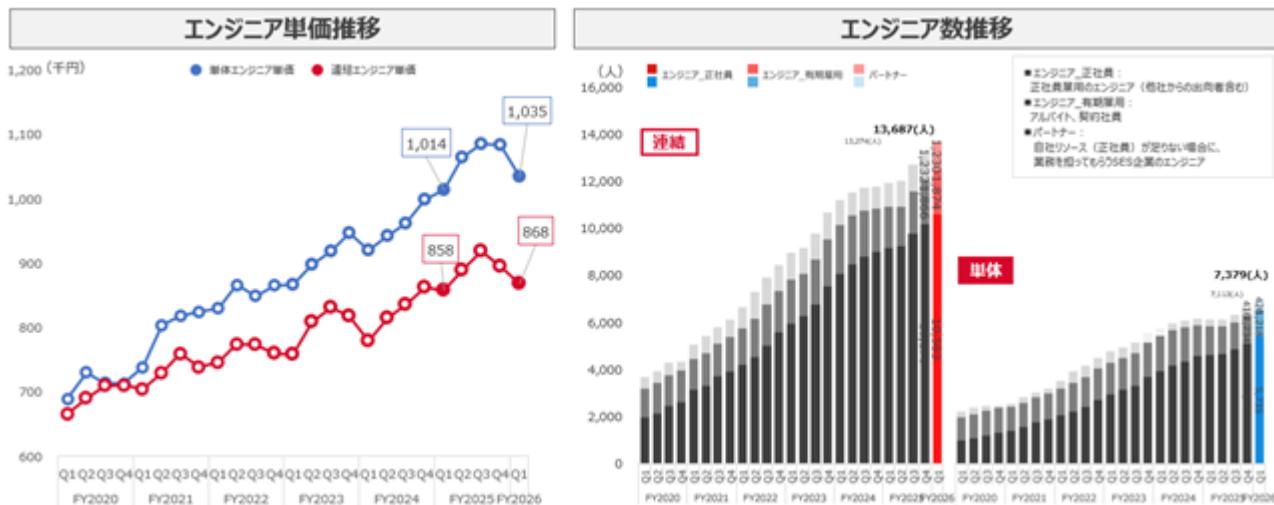
$$\text{顧客月額売上単価 (連結)} = \frac{\text{単体売上高} + \text{連結子会社売上高}}{\text{単体顧客数 (合計)} + \text{連結子会社顧客数 (合計)}}$$

単体売上高	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社売上高	月次の売上高を四半期で合計した数値
単体顧客数 (合計)	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社顧客数 (合計)	月次の売上高を計上した顧客数を四半期で合計した数値

(ウ) 月間取引顧客数

$$\text{月間取引顧客数} = \text{単体顧客数 (平均)} + \text{連結子会社顧客数 (平均)}$$

単体顧客数 (平均)	その月に売上高を計上した顧客の数と、その月に売上高を計上していないが稼働があった顧客の数を合計し、四半期で平均した数値
連結子会社顧客数 (平均)	その月に売上高を計上した顧客の数を四半期で平均した数値



エンジニア単価及びエンジニア数推移の算出方法は以下のとおりであります。なお、これらの計算には、エンジニア単価として業績を管理することが適切ではないと認められる一部の事業（ライセンス販売や教育サービス、販促サービス等）に係る売上高及びエンジニア数を含めておりません。

(ア) エンジニア単価（単体）

$$\text{エンジニア単価（単体）} = \frac{\text{単体売上高}}{\text{単体エンジニア数}}$$

単体売上高	エンジニアが稼働しない売上高を除く売上高
単体エンジニア数	売上を計上した案件に係る稼働があったエンジニアの稼働時間と、その管理に携わった人員の稼働時間を合計し、人月換算した数値

(イ) エンジニア単価（連結）

$$\text{エンジニア単価（連結）} = \frac{\text{単体売上高} + \text{連結子会社売上高}}{\text{単体エンジニア数} + \text{連結子会社エンジニア数}}$$

単体売上高	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社売上高	月次の売上高を四半期で合計した売上高
単体エンジニア数	上記(ア)に記載のとおり
連結子会社エンジニア数	月次の所属エンジニア数を四半期で合計した数値

(ウ) エンジニア数推移

エンジニア数推移におけるエンジニア数は、四半期末時点において、雇用契約が締結されている当社グループの正社員、契約社員及びアルバイトの所属人数並びに協力会社の従業員契約者数の合算数値であります。

(③) セグメント別の業績

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(ア) ソフトウェアテスト関連サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	19,279	22,649	3,370	17.5 %
売上総利益	6,779	7,694	914	13.5 %
販売費及び一般管理費	2,019	3,431	1,412	69.9 %
うち取得関連費用	—	20	20	— %
うちのれん償却費	0	8	7	— %
うち顧客関連資産に係る減価償却費	—	—	—	— %
営業利益	4,760	4,262	△497	△10.4 %
EBITDA	4,806	4,339	△466	△9.7 %

ソフトウェアテスト関連サービスでは、主にソフトウェアテスト・品質保証、コンサルティング・PMO、カスタマーサポート、セキュリティといったサービスを提供しております。

当第1四半期連結累計期間では、顧客目線での提案の徹底により売上高が上昇した一方で、前連結会計年度上期に戦略的に抑制していた採用活動を正常化したことによる採用費の増加の結果、ソフトウェアテスト関連サービスの売上高は22,649百万円（前年同期比17.5%増）、営業利益は4,262百万円（前年同期比10.4%減）となりました。また、ソフトウェアテスト関連サービスセグメントにおいては、当第1四半期連結累計期間ではM&Aに係る取得関連費用は、20百万円（前年同期は発生なし）となっております。

なお、当社で計上している一般管理費のうち2,266百万円（前年同期は1,993百万円）は、ソフトウェアテスト関連サービスセグメントに配分せず、全社費用としております。

(イ) ソフトウェア開発関連サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	9,696	10,471	775	8.0 %
売上総利益	2,429	2,624	194	8.0 %
販売費及び一般管理費	1,718	2,185	467	27.2 %
うち取得関連費用	2	32	30	— %
うちのれん償却費	217	208	△8	△3.7 %
うち顧客関連資産に係る減価償却費	20	20	△0	△1.0 %
営業利益	711	438	△272	△38.4 %
EBITDA	979	703	△276	△28.2 %

ソフトウェア開発関連サービスでは、主にシステム開発、システム性能改善、IT戦略策定、システム企画・設計、エンジニアマッチングプラットフォーム、データ分析などのソフトウェア開発プロセスに直接的に関与するサービスを提供しております。

当第1四半期連結累計期間では、前連結会計年度上期に戦略的に抑制していた採用活動を正常化したことにより売上高上昇も採用費の先行投資による影響で、ソフトウェア開発関連サービスの売上高は10,471百万円（前年同期比8.0%増）、営業利益は438百万円（前年同期比38.4%減）となりました。また、ソフトウェア開発関連サービスセグメントの販売費及び一般管理費に含まれているM&Aに係る取得関連費用は、32百万円（前年同期比16.0倍）となっております。

(ウ)その他近接サービス

(単位：百万円)

	前期	当期	増減	増減率
売上高	2,321	3,227	906	39.0 %
売上総利益	1,080	1,426	346	32.1 %
販売費及び一般管理費	1,044	1,091	47	4.5 %
うち取得関連費用	89	—	△89	△100.0 %
うちのれん償却費	142	120	△21	△15.0 %
うち顧客関連資産に係る減価償却費	75	67	△7	△9.8 %
営業利益	35	334	299	838.9 %
EBITDA	367	691	323	88.0 %

その他近接サービスでは、主にWeb企画制作、マーケティング、キッティング、クラウドサービス、ローカライズ、M&A/PMI (Post Merger Integration) など、ソフトウェアテスト及びソフトウェア開発と近接するマーケットで、当社の既存事業とは異なるビジネスモデルに基づくサービスを提供しております。

当第1四半期連結累計期間では、Windows11搭載PCへの入れ替え需要などを中心に一部のグループ会社の売上が好調に推移した影響により、その他近接サービスの売上高は3,227百万円（前年同期比39.0%増）、営業利益は334百万円（前年同期比838.9%増）となりました。

また、その他近接サービスセグメントにおいては、当第1四半期連結累計期間ではM&Aに係る取得関連費用は、発生しておりません。

なお、セグメントは原則として個社ごとに区分しておりますが、近年の当社グループにおける提供サービスの多様化に応じて、個社のサービス区分別での売上高情報を、セグメント情報とは別途参考として開示いたします。当第1四半期連結累計期間については以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	コンサル	開発	テスト	BPaaS	その他	調整額	計
連結売上高	3,839	12,188	15,066	943	2,591	216	34,845
うちAI関連（注1）	212	1,080	461	4	3	—	1,763
単体売上高	3,160	3,535	14,446	783	85	227	22,238

(注1)AI関連は、顧客のAI案件への参画又はデリバリ工程でAIを活用した案件としております。

(注2)調整額の内容は、一部の売上高における原価回収基準の調整や代理人取引の調整等であります。

(注3)各分類に含まれるサービスは以下のとおりであります。

分類	サービス内容
コンサル	戦略・業務改善・DXなどに係るコンサルティングサービス
開発	システム開発やパッケージソフトウェアの導入などのサービス
テスト	品質保証に係るサービス
BPaaS	カスタマーサクセス・ヘルプデスク・各種バックオフィス支援業務などのサービス
その他	上記に分類されないサービス

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ2,101百万円増加し、79,102百万円となりました。これは主に、借入等により現金及び預金が1,592百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債につきましては、前連結会計年度末と比べ276百万円増加し、36,239百万円となりました。これは主に、法人税等の納付により未払法人税等2,141百万円、約定弁済等のため長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が897百万円減少したものの、運転資金の確保を目的とした新規借入により短期借入金が4,000百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ1,824百万円増加し、42,862百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が1,795百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年8月期の業績予想につきましては、2025年10月14日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

	前連結会計年度 (2025年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年11月30日)	(単位：百万円)
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	23,726	25,318	
受取手形、売掛金及び契約資産	15,400	15,230	
棚卸資産	1,626	2,145	
その他	2,390	2,455	
貸倒引当金	△20	△55	
流動資産合計	43,123	45,092	
固定資産			
有形固定資産	7,923	8,173	
無形固定資産			
のれん	7,866	7,674	
その他	4,321	4,282	
無形固定資産合計	12,188	11,956	
投資その他の資産			
投資有価証券	9,583	9,515	
その他	4,316	4,420	
貸倒引当金	△134	△57	
投資その他の資産合計	13,765	13,878	
固定資産合計	33,877	34,009	
資産合計	77,001	79,102	
負債の部			
流動負債			
買掛金	2,054	1,823	
短期借入金	—	4,000	
1年内返済予定の長期借入金	3,532	3,671	
未払費用	7,308	6,994	
未払法人税等	3,158	1,016	
賞与引当金	423	622	
株式報酬引当金	80	75	
その他の引当金	16	5	
その他	8,453	7,868	
流動負債合計	25,028	26,076	
固定負債			
長期借入金	8,504	7,468	
退職給付に係る負債	136	130	
資産除去債務	705	707	
その他	1,589	1,856	
固定負債合計	10,935	10,162	
負債合計	35,963	36,239	
純資産の部			
株主資本			
資本金	21	21	
資本剰余金	14,365	14,365	
利益剰余金	31,964	33,759	
自己株式	△5,834	△5,829	
株主資本合計	40,516	42,316	
その他の包括利益累計額			
その他有価証券評価差額金	71	8	
為替換算調整勘定	10	22	
その他の包括利益累計額合計	81	30	
株式引受権	413	489	
新株予約権	25	25	
純資産合計	41,037	42,862	
負債純資産合計	77,001	79,102	

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
売上高	30,174	34,845
売上原価	20,150	23,525
売上総利益	10,024	11,319
販売費及び一般管理費	6,507	8,502
営業利益	3,517	2,817
営業外収益		
受取利息	0	1
助成金収入	25	33
貸倒引当金戻入額	0	45
その他	14	19
営業外収益合計	40	100
営業外費用		
支払利息	15	38
支払手数料	1	1
持分法による投資損失	—	64
出資金運用損	224	20
その他	2	14
営業外費用合計	243	139
経常利益	3,313	2,778
特別利益		
持分変動利益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
投資有価証券評価損	163	—
特別損失合計	163	—
税金等調整前四半期純利益	3,150	2,778
法人税等	1,134	983
四半期純利益	2,016	1,795
非支配株主に帰属する四半期純利益	39	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,976	1,795

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
四半期純利益	2,016	1,795
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	△62
為替換算調整勘定	0	11
その他の包括利益合計	12	△51
四半期包括利益	2,029	1,743
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,989	1,743
非支配株主に係る四半期包括利益	39	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ソフトウェア テスト関連 サービス	ソフトウェア 開発関連 サービス	その他近接 サービス	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	19,122	9,074	1,977	30,174	—	30,174
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	156	621	343	1,122	△1,122	—
計	19,279	9,696	2,321	31,297	△1,122	30,174
セグメント利益	4,760	711	35	5,507	△1,990	3,517

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,990百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ソフトウェア テスト関連 サービス	ソフトウェア 開発関連 サービス	その他近接 サービス	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	22,486	9,560	2,798	34,845	—	34,845
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	163	910	429	1,503	△1,503	—
計	22,649	10,471	3,227	36,349	△1,503	34,845
セグメント利益	4,262	438	334	5,036	△2,218	2,817

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,218百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年9月1日 至 2025年11月30日)
減価償却費	440 百万円	486 百万円
のれんの償却額	359 " "	338 "